

第320回

こども病院 カンファレンス

2019年

9月17日 火 19:00-20:30

こども病院 2階講堂【てりはホール】

赤ちゃんの外性器の診かた

【テーマ】リフレッシュコース

新生児科 楠田 剛

男女の性別は出生時に判断されますが、あいまいな外性器の場合はその判断が難しく、また出生届は生後2週間以内の提出が定められており、性決定に緊急を要する場合があります。当院は全国に28ある性分化疾患診療の中核施設であり、あいまいな外性器の新生児が入院します。内分泌科、泌尿器科、新生児科、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、地域医療連携室等他多職種が集まり性決定委員会を開催し、家族の意向も含めて性決定を行っています。今回、日常診療で遭遇する、小陰茎や停留精巣、陰核肥大等で紹介された症例を提示しながら、性分化疾患について解説します。

胎児を取り巻く環境について～エコチル調査から見てきたこと～

【テーマ】トピックス

九州大学医学研究院 保健学部門
教授 諸隈誠一

Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD)とは、胎児期の環境によって成人期に発症する様々な疾患の素因が形成されるという概念であり、近年、関心が高まるとともに重要性が認識され始めた。本発表では、こどもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）のデータや日本産科婦人科学会周産期登録データベースなどの解析から見てきた現在の胎児を取り巻く環境や子育て環境について報告する。